

広島県立総合技術研究所が発足しました

センター長 馬久地 隆幸

ごあいさつ

昨今の水産業界を見ますと、全国的には魚価の低迷に歯止めがかかるなどのプラスの兆しも見られるものの、「魚離れ」が急速に顕在化するなど好転材料は未だ乏しい状況にあります。水産物小売の主体が量販店に移り、入荷量、品質が不安定な天然魚の魚価は依然として低迷を続けていますし、ノロウイルス問題などで見られるように、消費者の「食の安全安心」への関心が一層高まっており、生産者に対する安全性確保への要求が厳しくなっています。そんな中、研究機関を取り巻く環境もまた、大きく変化しています。私たち県立の研究機関に対する県民や県内産業からのニーズも多様化・複雑化しており、これらに答えるためには、これまでにない新しい研究分野の開拓が必要となっています。

このため平成19年4月より、私たち水産海洋技術センターを含む県立の8つの試験研究機関が、民間から登用した所長の下、広島県立総合技術研究所として統合されました。これまで個々のセンターが保有していた複数の技術分野を駆使し、横断的・融合的な研究による、より高度で総合的な課題解決力を目指します。



アマモの移植用苗



かき種苗



広島県産あさり



一粒かき育成した縞かき



オニオコゼの親魚



アユの放流種苗

新しい部を編成しました

水産海洋技術センター内部の構成も改変し、これまでの「企画情報部」に代わり「技術支援部」を、「水圏環境部」「栽培養殖部」「かき養殖部」をまとめて「水産研究部」を設置しました。

「技術支援部」は、試験研究の企画調整、研究成果などの情報発信に加え、新たに産学官連携での共同研究の推進、技術センターの利活用の促進などを図るための営業活動、また、技術課題の相談に対する総合的な窓口機能を担うこととなります。県民の皆様からの情報提供、相談、要望等も、この技術支援部が窓口となりますので、ご活用をよろしくお願いいたします。

「水産研究部」は、これまでの水圏環境部、かき研究部、栽培養殖部の垣根を取り外し、より多角的な視野から課題に取り組みます。さらに、それぞれの研究テーマについてチームで取り組むこととし、1つの研究テーマにこれまでより多くの研究員が参加することで、センターの技術力を集結し、より現場に生かせる研究成果を生み出す体制を整えました。

当センターの全体的な研究及び技術支援の推進方策を整理しますと次図のようになります。図にお示した推進フローをうまく循環させ、今まで以上に、皆様に身近でお役に立てるセンターとして機能させていきたいと思っています。

今後一層のご支援とご活用を賜りますようお願いいたします。

研究と技術支援の推進フロー



技術支援部に気軽に相談を

新しく設置された技術支援部は、皆様のニーズに答えるべく、これらの業務の総合相談窓口となりました。身近な研究機関を目指してがんばりますので、お気軽にご連絡ください！

受託研究

水産関連分野における技術的な課題解決のために、団体や企業等からの委託や競争的研究資金等を受けて、研究や調査等を行っています。なお、経費や研究成果の取扱いについては事前に協議させていただきますので、技術的な解決が必要な際にはご相談ください。

共同研究

新技術の開発や技術的な問題解決を促進するため、他の試験研究機関や企業等との共同研究も実施しています。水産分野への展開を検討されている異業種企業とも共同で研究を実施しています。なお、経費や研究成果の取扱いについては、受託研究と同様です。

技術研修の受入れ

当センターで開発した技術や一般的な技術について技術習得を希望される方に研修を実施しています。研修希望者には、事前にご相談をお受けし、研修依頼申請書（様式はHPの各種様式ダウンロードを参照）を提出いただいています。研修内容によっては時期的な調整も必要になりますので早めにご相談ください。

最近の研修生受入れでは、かき養殖業者やその後継者（一粒かき種苗生産・養殖技術、かき人工採苗技術、かき幼生調査手法）や大学生（疾病対策試験）を受入れています。

依頼試験

漁業者等の依頼により魚病診断を実施しています。診断は原則として、事前に電話で相談を受け、魚病診断依頼書（様式はHPの各種様式ダウンロードを参照）の提出いただき、検体の送付を受けて実施します。

技術等相談

上記以外にも水産関連分野での技術的な問題でお困りの時や養殖技術研修会などへの講師派遣要請、施設・機器の利用についての相談も受け付けています。

技術支援部の連絡先 0823-51-2173（直通）